

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

<金沢大学>

○ 薬剤師による薬物治療の実践－褥瘡治療を例として－

- ・学部生及び大学院生を対象として、地域における薬剤師による薬物治療の実践講習に参加する研修を実施した。褥瘡治療の知識と実技の習得を図った。

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、がん薬物療法における最新知識及び臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的とした研修会を実施した。

<岐阜薬科大学>

○ 新しい緩和医療を体験学習する～リボン洞戸における宿泊研修～

- ・学部生を対象として、リボン洞戸における宿泊研修を実施した。
- ・日本でのがんによる死亡者数は第1位で、約3人に1人が亡くなっており、年間で見ると約35万人にのぼる。がんの代表的な治療方法のほか、免疫治療、温熱療法、代替医療などの目も向けることによって、より多くのがん治療を選択することが可能になる。そこで、リボン洞戸において免疫力を上げ、がんを予防するための生活習慣「リボン5か条」を体験することにより、これからの新しい緩和医療について学習した。

<岡山大学>

○ アドバンスト検体測定・生体モニタリング（*）

- ・学部生及び大学院生、卒後の薬剤師を対象として、アドバンスト検体測定・生体モニタリング演習を6回実施した。
- ・保険薬局で実施可能な検体測定に加え、薬局や在宅医療チームの一員として薬剤師も実施することが望ましいバイタル測定の正しい手技、さらに健康サポートに有用な非侵襲的生体モニタリングを体験し、その有用性について考える機会となった。

◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ 漢方専門薬局短期インターンシップ (*)

- ・学部生を対象として、漢方専門薬局が日々どのように様々な来客者に対峙し、個々に最適な漢方処方を組立て調剤しているのかを学ぶことを目的として、画期的な煎出法であるIPCD法の開発を行った研究者が営む老舗漢方専門薬局を訪問し、2日間のインターンシップを実施した。
 - ・証を判断するための脈診や舌診などのロールプレイのほか、今では全国的にも数少なくなった丸剤の自家調製を「知柏地黄丸」や「桂枝茯苓丸」で体験した。
- ◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ OTCカウンセリング研修 (*)

- ・学部生を対象として、患者さんの症状や状況に応じて適正なOTCを選択するための知識を現場体験を通して学ぶことを目的として、OTCカウンセリング研修を実施した。
 - ・本研修では、実際のドラッグストア店舗において主な適応の同じ多くの市販薬の成分の違いからどのような患者にどのような市販薬を進めるかについて注意すべき点を学ぶとともに、ロールプレイを通じて適正なOTCを選択するための知識やスキルを実践的に学んだ。
- ◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ 精神科病院薬剤師研修：精神科の薬剤師業務を体験しよう (*)

- ・学部生を対象として、精神科病院で薬剤師に求められる他科とは異なる役割について模擬体験を通して学ぶことを目的として、精神科病院薬剤師研修を実施した。
 - ・本研修では、岡山県精神科病院協会薬剤師部会の先生方の協力を得て、精神科医療の現場で行われている「心理教育」の模擬体験を通じて、精神科で求められる「医療人」としての薬剤師とはどのようなものなのかを体験した。
- ◇ 参加人数：学生5名、教員2名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会（大澤光司氏） (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、高度先導的薬剤師養成プログラム講演会を実施した。本講演会では、前全国薬剤師・在宅療養支援連絡会会長の大澤光司氏を講師として招き、今後薬剤師が高齢者医療へどのような形で関わられるのかについて、情報交流の機会を提供した。
 - ・多職種連携によって薬剤師による薬物療法から派生する在宅支援に向けた貴重な講演会となった。
- ◇ 参加人数：学生3名、教員1名、薬剤師14名

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを実施した。人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生する中で、薬局薬剤師が関与することによってこ

- の問題を解決することを目指し、一般市民への啓発活動を行った。
- ・漢方薬局も加え東洋医学的観点からの生活習慣指導を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材養成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2019年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。